

山鳥坂ダム工事事務所 ダム事業費等監理委員会

—山鳥坂ダム建設事業—

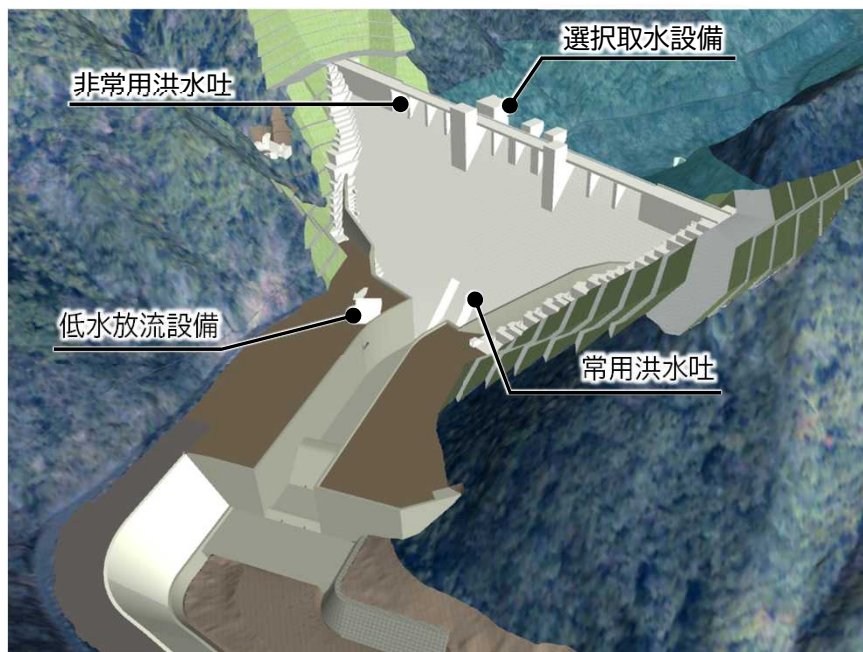
令和8年6月

山鳥坂ダム工事事務所

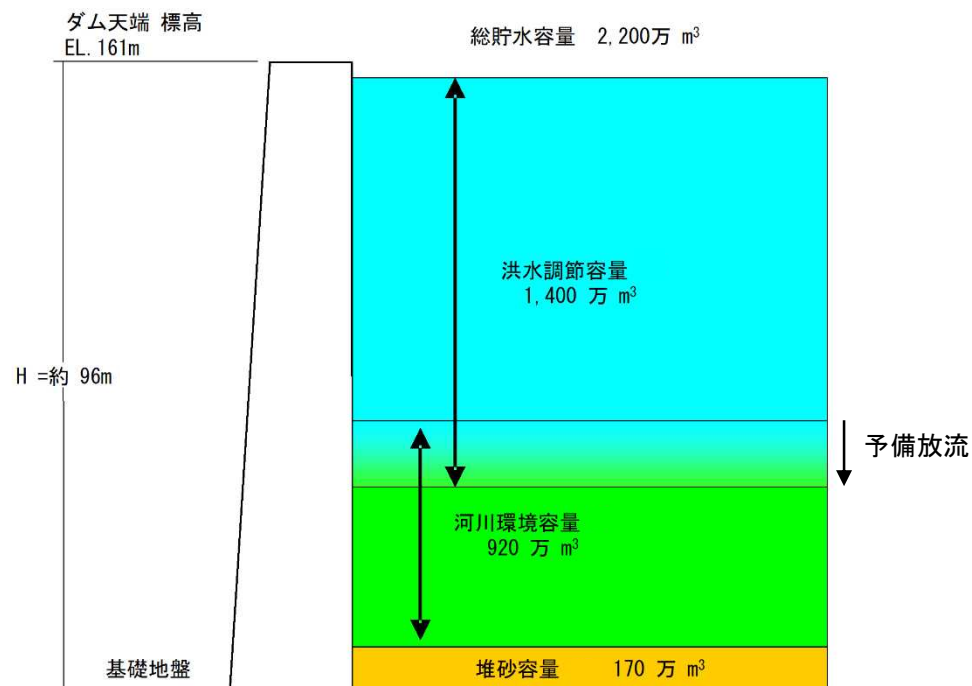
1. 事業概要 . . . . . P. 2～P. 4
2. 前回の委員からの指摘事項 . . . . . P. 5
3. 事業の進捗状況 . . . . . P. 6～P. 7
4. 令和7・8年度の主な実施内容 . . . . . P. 8～P. 17
5. コスト縮減 . . . . . P. 18～P. 22
6. その他 . . . . . P. 23～P. 24

- おおずし ひじかわちょう やまとさか ひじかわ かわべがわ
- 場所：愛媛県大洲市肱川町山鳥坂(肱川水系河辺川)
  - 目的：洪水調節(肱川の洪水防御)  
流水の正常な機能の維持

## 山鳥坂ダム建設イメージ

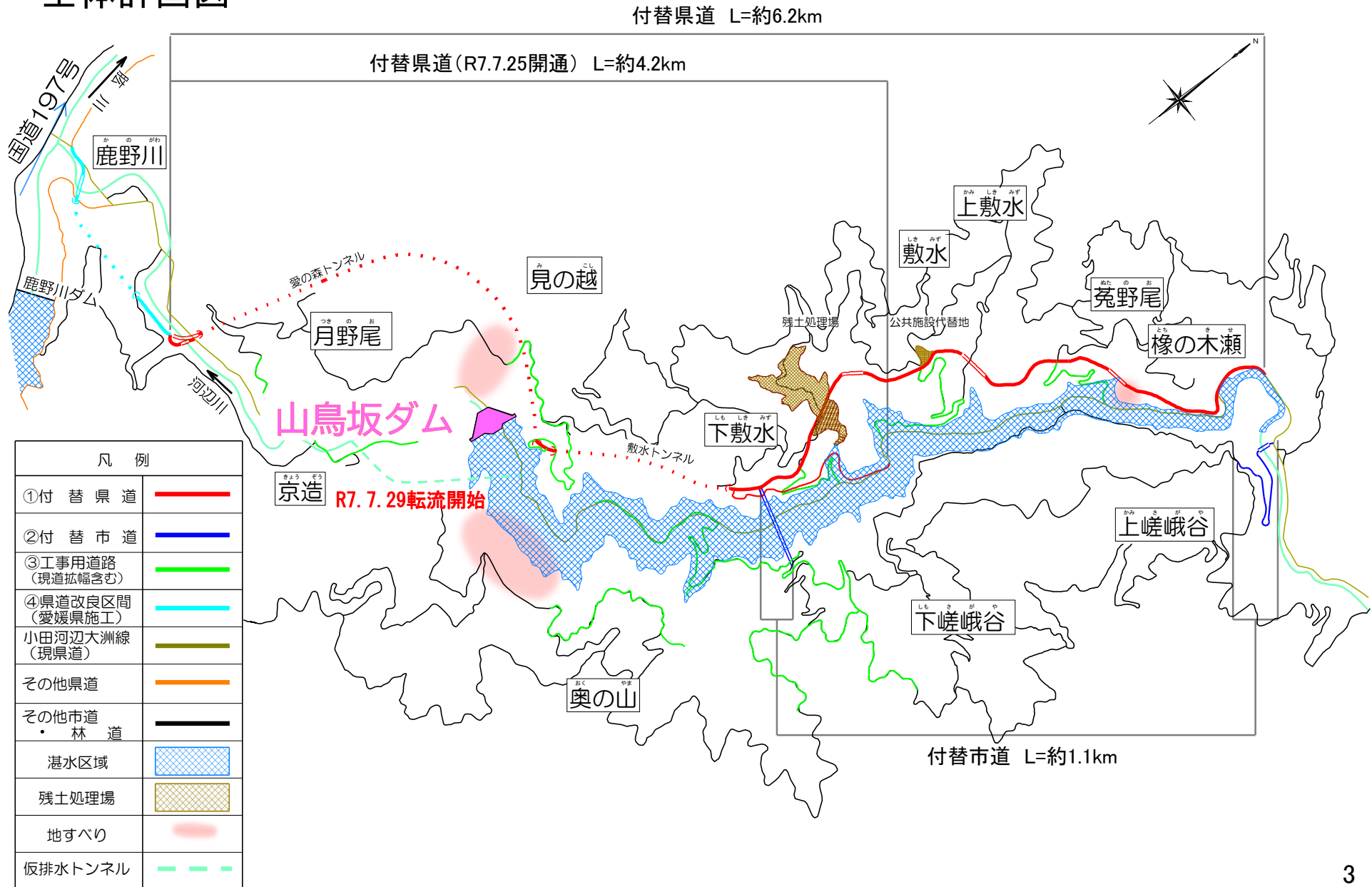


## 山鳥坂ダム容量配分図



# 事業概要

## 全体計画図



# 事業概要(山鳥坂ダム建設事業の主な経緯)



平成 4年	4月	建設事業着手
平成 6年	8月	特定多目的ダム法の基本計画公示(事業費 約1,070億円)
平成13年	5月	分水量を縮小した「見直し案」を提示
平成14年	5月	中予分水を除外した上で計画を再構築した「再構築計画案」を提示
平成15年	10月	「肱川水系河川整備基本方針」策定
平成16年	5月	「肱川水系河川整備計画」策定
平成17年	4月	特定多目的ダム建設事業から直轄河川総合開発事業に移行(事業費 約850億円)
	10月	特定多目的ダム法に基づく基本計画を廃止
平成18年	7月	地権者協議会とダム事業に関する基本協定書を締結(用地調査の開始)
平成20年	5月	環境影響評価手続き完了 ダム事業費等監理委員会設立(毎年実施)
	7月	山鳥坂ダム・鹿野川ダム環境検討委員会設立
平成21年	9月	用地補償基準(案)を地権者協議会が了承
	10月	国土交通大臣が平成21年度におけるダム事業の進め方について発表「当初予定していた新たな段階に入ることとなる用地買収の着手を取りやめる事業」となる
	12月	国土交通大臣が新たな基準に沿った検証の対象とするダム事業を設定する考え方について発表 山鳥坂ダムは検証対象ダムとなる
平成22年	9月	国土交通大臣よりダム事業の検証に係る検討指示
平成25年	1月	国土交通省の対応方針について「継続」決定
	3月	損失補償基準に関する協定書調印式
令和元年	12月	「肱川水系河川整備計画」変更
令和3年	12月	「令和3年度 山鳥坂ダム工事事務所 ダム事業費等監理委員会(第2回)」にてダムサイトの変更を公表
令和4年	6月	「肱川水系河川整備計画」変更
	8月	事業再評価(ダムサイト、事業費(約850億円→1,320億円)、工期変更(令和8年度完成→令和14年度完成))
令和5年	8月	「肱川水系河川整備基本方針」変更
	9月	転流工工事着手
令和7年	2月	肱川漁業組合と漁業補償に関する契約を締結
	7月	愛の森トンネル、敷水トンネルを含む4.2km付替県道区間を供用、河辺川の転流開始
	8月	事業再評価(事業費 約1,980億)
	10月	ダム本体工事 契約
令和8年	5月	山鳥坂ダム本体建設工事 起工式

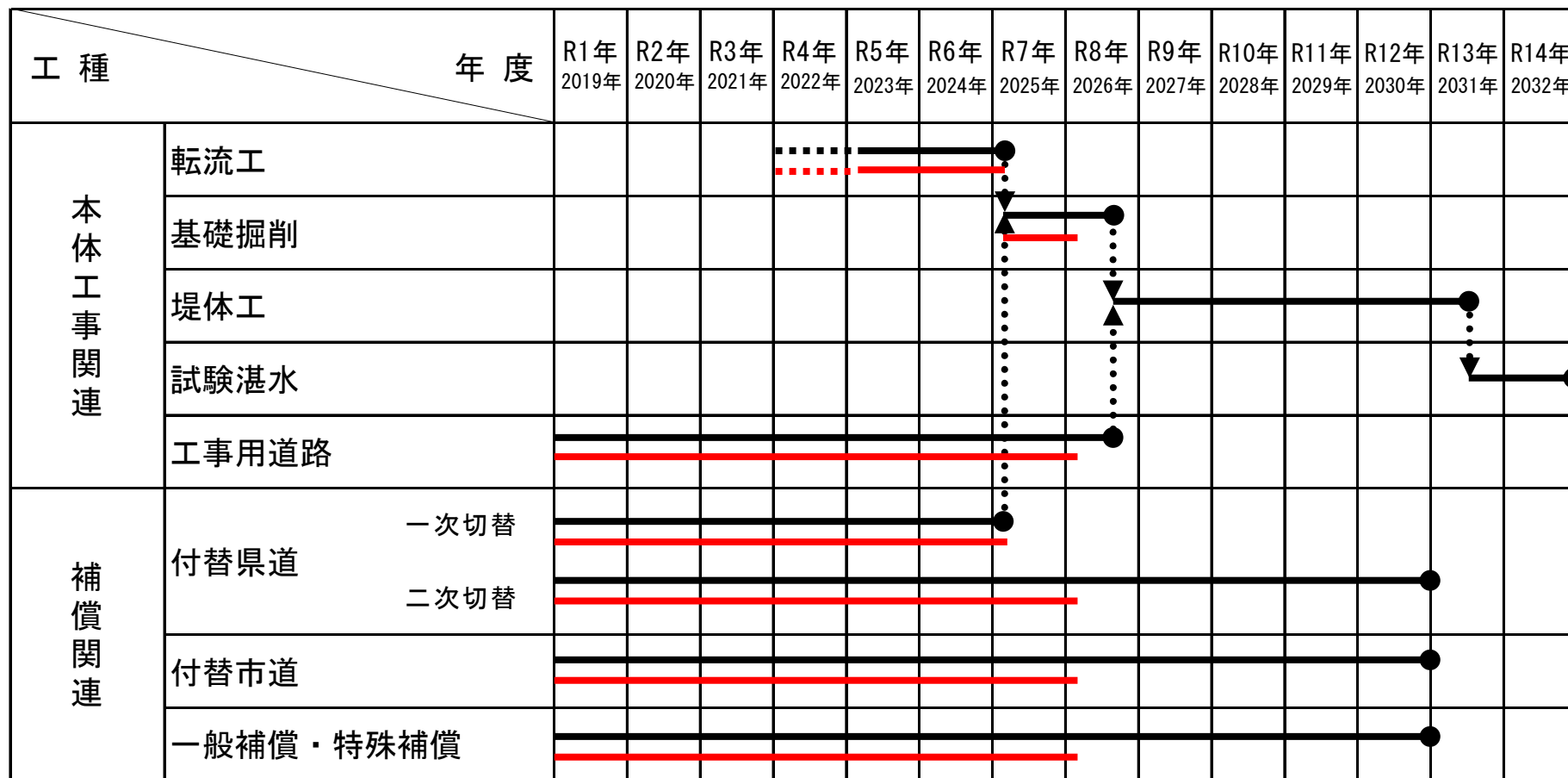
- 近年の物価変動等により、事業費約1,980億円となることはやむを得ないが、新技術の活用などにより徹底したコスト縮減に努めること。
- 令和14年度完成見込みの順守にとどまらず、一日も早い治水安全度の向上に向けて工期短縮にも努めること。
- 引き続き、付替道路の早期供用に向け事業を進めること。

# 事業の進捗状況(事業工程)

## 【令和8年度の実施内容】

- 本体工事関連は、昨年度に引き続き基礎掘削、堤体工(仮設備)を実施するとともに、本体工事に関連する工事用道路を実施。
- 補償関連は、付替県道・市道の工事等を継続して実施。

### 事業工程



計画  
 実績

# 事業の進捗状況 (進捗率)

(令和8年3月末時点)

用地取得 (約139ha)	92% (128ha)			
家屋移転契約 (33戸)	100% (33戸)			
付替道路 (県道 約6.2km) (市道 約1.1km)	73% (約5.3km)			
付替県道に関する 工事用道路 (約2.6km)	100% (約2.6km)			
ダム本体に関する 工事用道路 (約7.3km)	32% (約2.3km)			
ダム本体及び 関連工事	仮排水トンネル	基礎掘削	コンクリート打設	試験湛水

--- 用地取得
  --- 道路工事
  --- ダム本体関連

# 令和7年度の主な実施内容 (R7.7.25 付替県道一部供用開始)



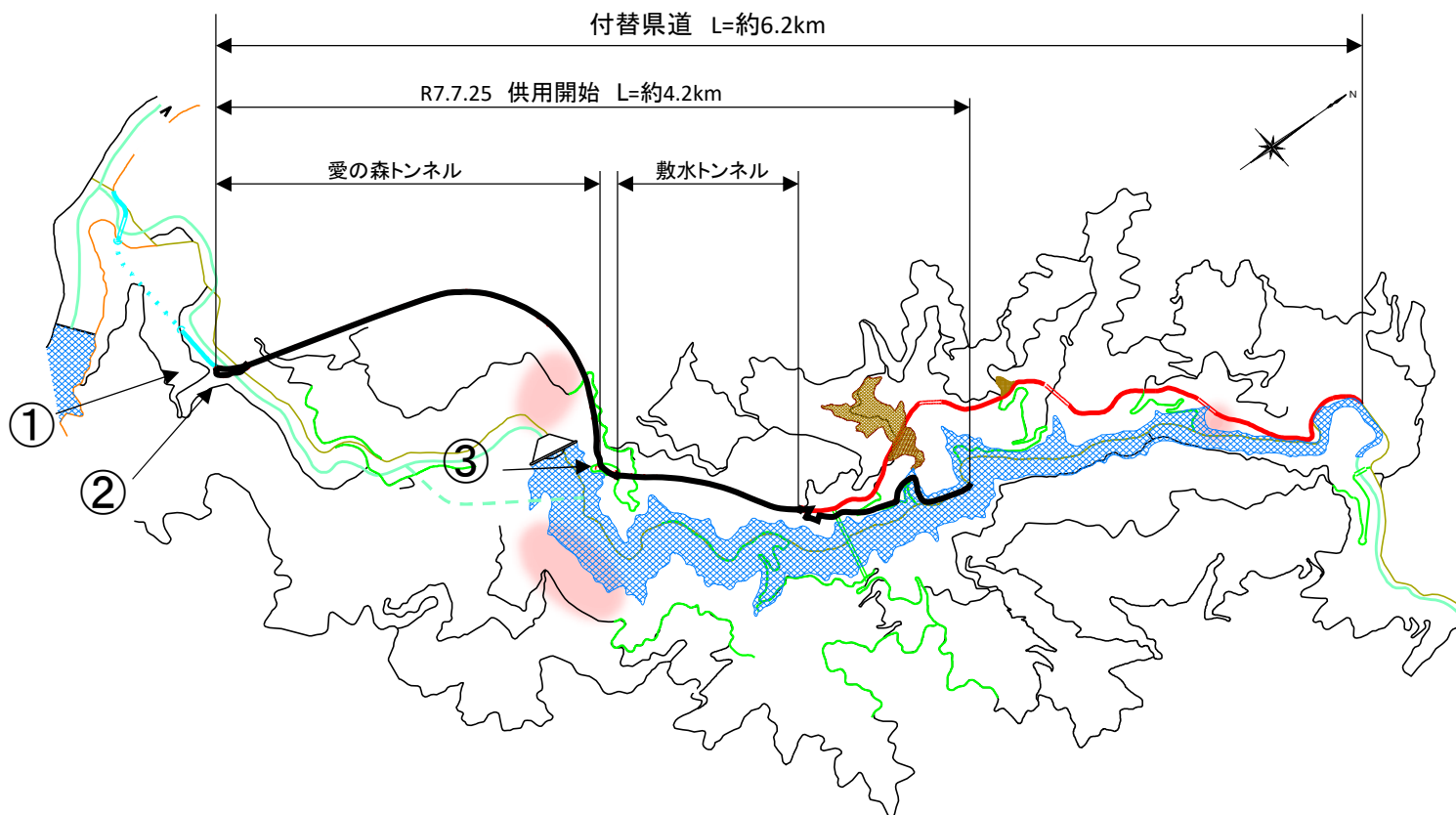
①上鹿野川地区  
(山鳥坂大橋)



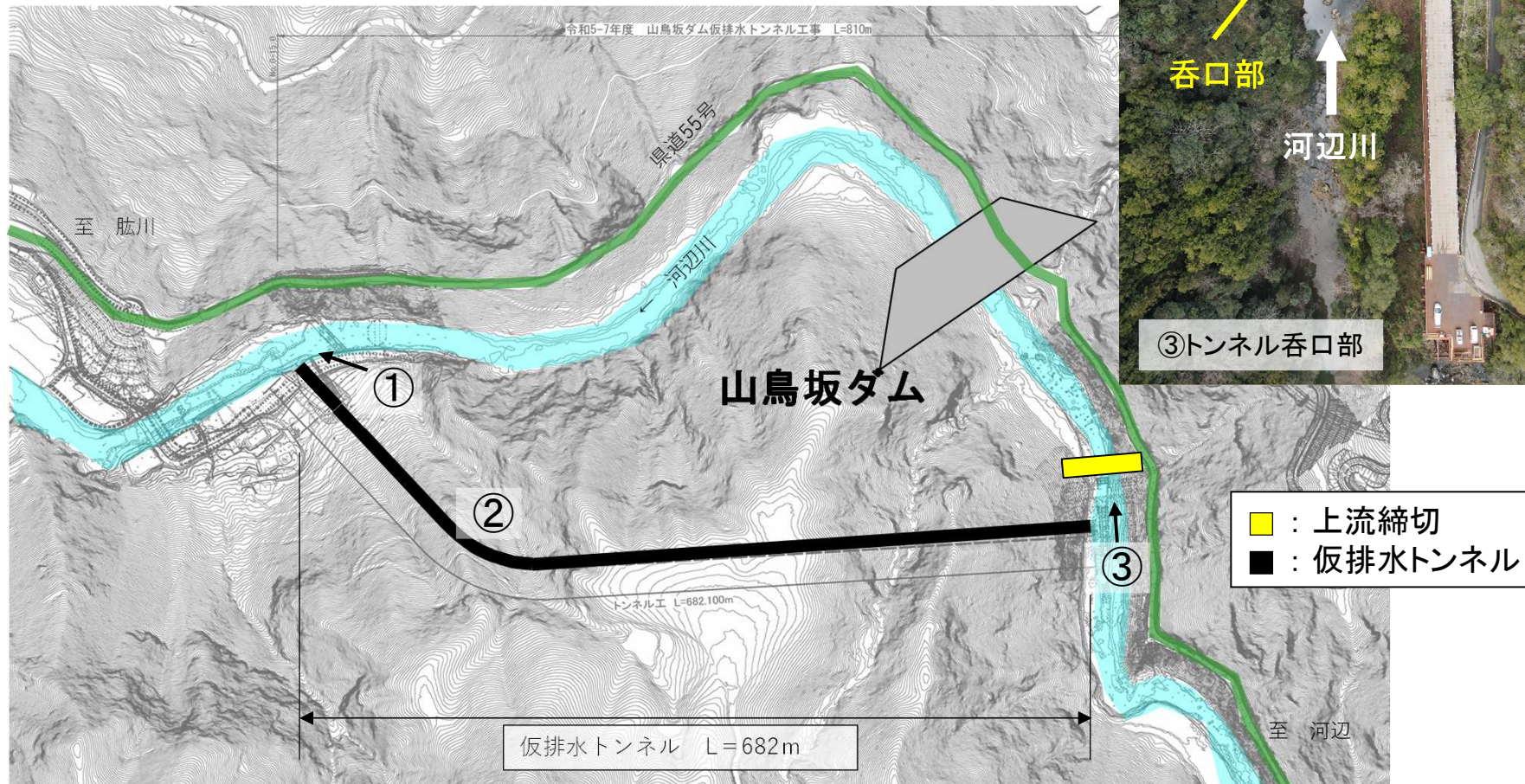
②愛の森トンネル  
L=2,128m



③敷水トンネル  
L=832m



# 令和7年度の主な実施内容 (R7.7.29 河辺川の転流開始)



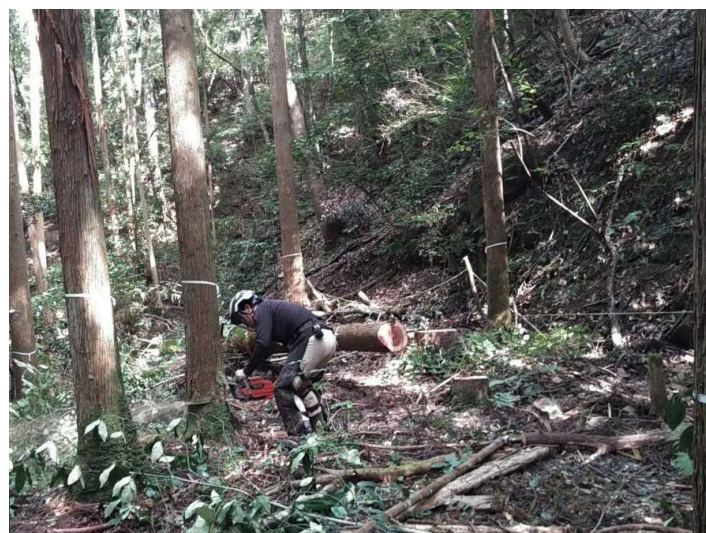
# 令和7年度の主な実施内容(本体工事)



沢水処理(左岸)



基礎掘削(全景)

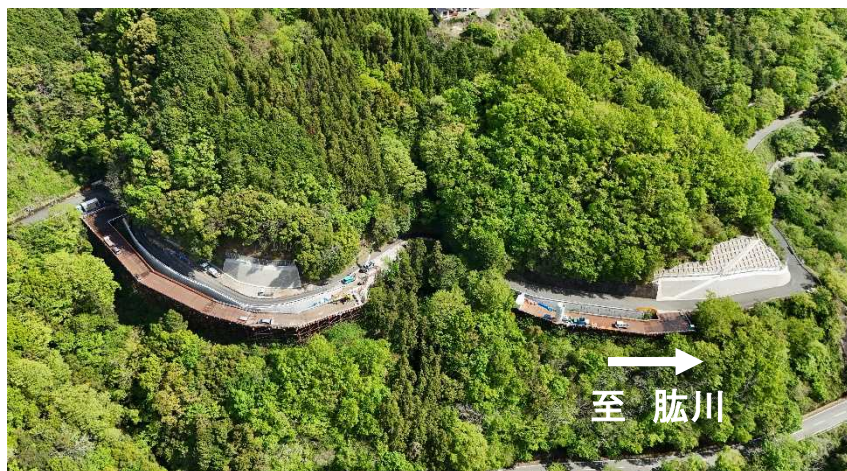


樹木伐採



基礎掘削(左岸頂部)

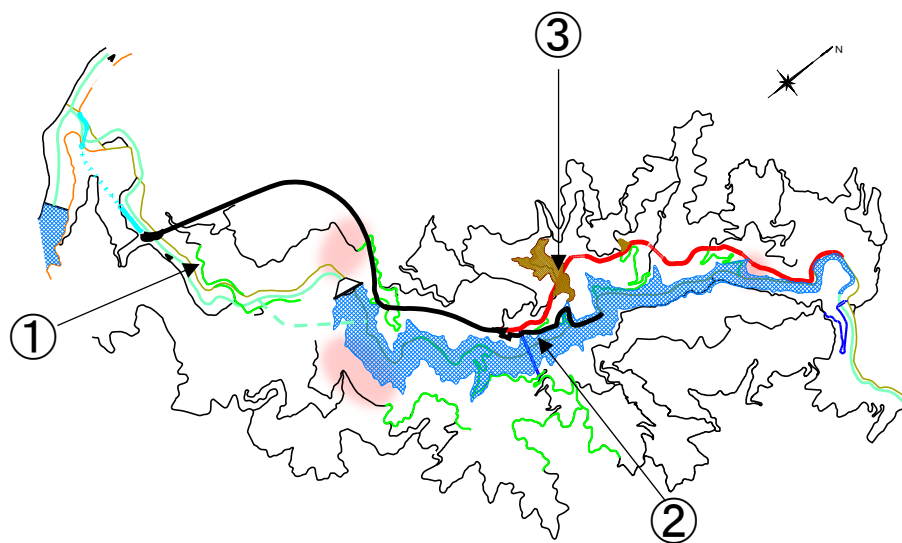
# 令和7年度の主な実施内容(付替県道・工事用道路)



①月野尾工事用道路(令和8年4月)



②下敷水付替県道(令和8年4月)



③敷水付替県道(令和8年4月)

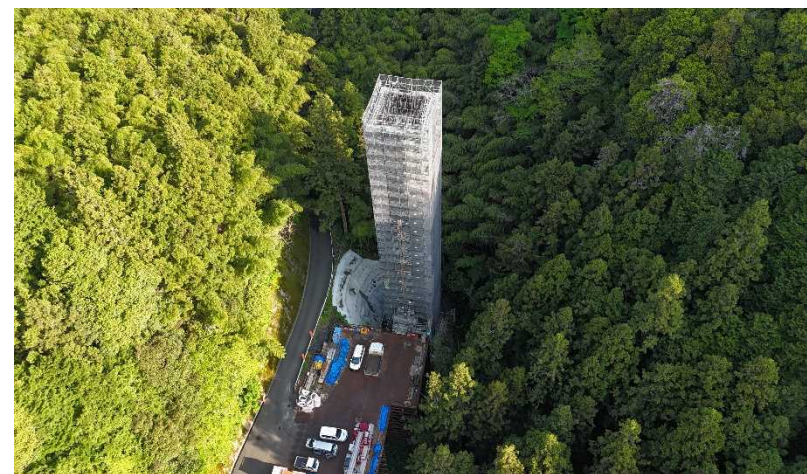
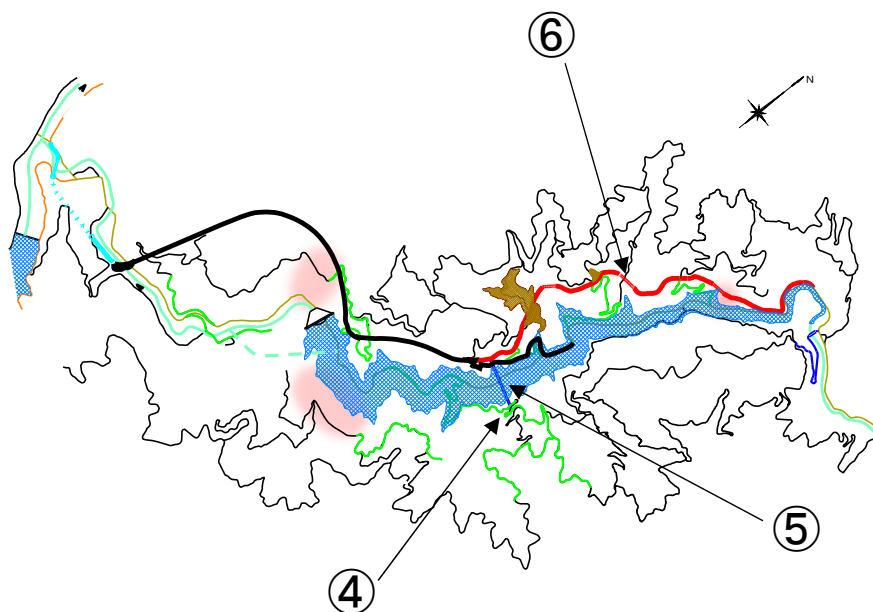
# 令和7年度の主な実施内容(付替県道・付替市道)



④下嵯峨谷付替市道(令和8年4月)  
〈新入船橋A1橋台〉



⑤下嵯峨谷付替市道(令和8年4月)  
〈新入船橋〉



⑥上敷水付替県道(令和8年4月)  
〈上敷水川橋〉

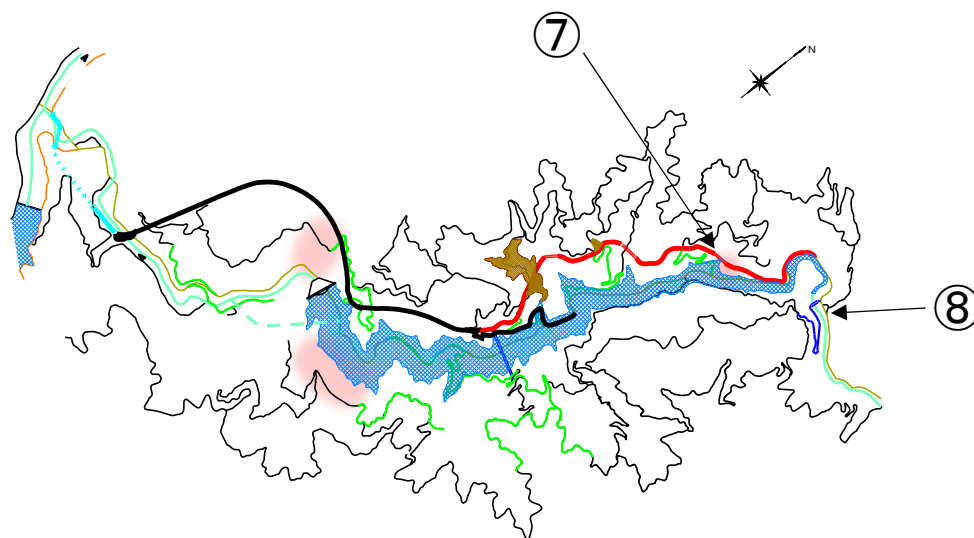
# 令和7年度の主な実施内容 (付替県道・付替市道)



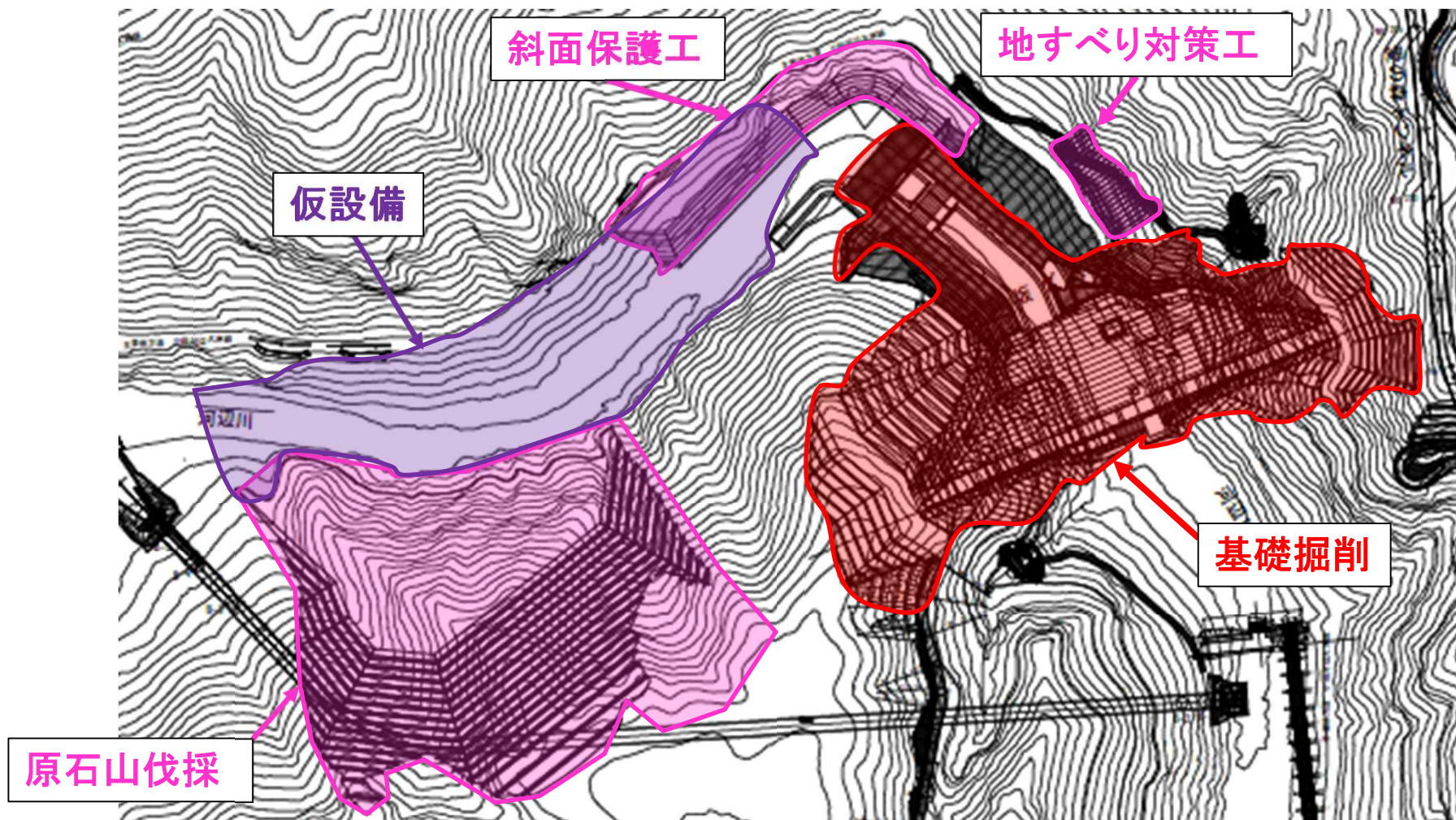
⑦菟野尾付替県道(令和8年4月)



⑧上嵯峨谷付替市道(令和8年4月)



# 令和8年度の主な実施内容(本体工事)



## ゲート設備工事

- 令和8-12年度 山鳥坂ダム選択取水設備新設工事
- 令和8-12年度 山鳥坂ダム洪水吐ゲート設備新設工事
- 令和8-12年度 山鳥坂ダム洪水吐予備ゲート設備新設工事

令和8年5月～令和13年3月  
令和8年5月～令和12年12月  
【契約手続き中】

# 令和8年度の主な実施内容 (付替県道・付替市道・工事用道路)



下敷水付替県道



下敷水付替県道



上敷水川橋上部、橋台



月野尾工事用道路



上嵯峨谷付替市道



新入船橋上部



新入船橋A1橋台

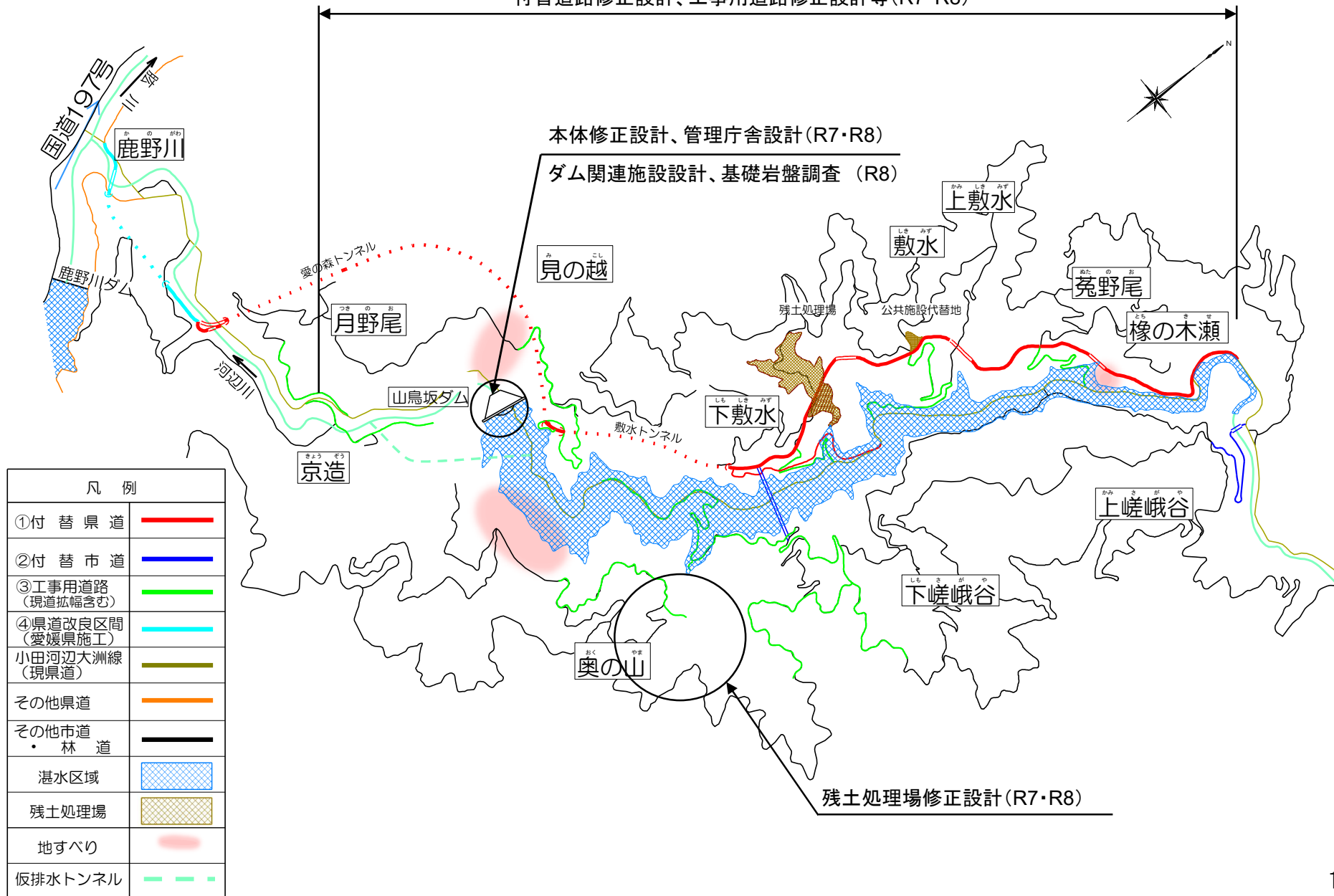


菟野尾付替県道

凡例	
	令和6年度まで
	令和7年度
	令和8年度
	令和9年度以降

# 令和7・8年度の主な実施内容(設計等業務)

付替道路修正設計、工事用道路修正設計等(R7・R8)



本体修正設計、管理庁舎設計(R7・R8)

ダム関連施設設計、基礎岩盤調査 (R8)

残土処理場修正設計(R7・R8)

# 令和7・8年度の主な実施内容(環境調査・基礎調査)

- 事業実施に必要な情報を収集・整理するため、環境調査・地すべり観測・水文水質調査等を継続的に実施

環境調査(動物・植物)	各種自然環境について現地調査・モニタリング・保全対策を継続的に実施
地すべり観測	地すべりの変動状況を継続的に観測
水理水文観測	水位・流量・雨量等を継続的に観測
地下水調査	地下水変動を継続的に観測
水質調査	水質を継続的に観測



環境調査(猛禽類)



環境調査(アオサナエの保全対策)



地すべり観測(孔内傾斜計観測状況)

## 伐採木の売り払いによるコスト縮減

CASE-1 ; 運搬・処分した場合



工事費 ; 約113百万円

CASE-2 ; 売り払いした場合



工事費 ; 約19百万円

比較

※運搬費のみ、売り払い収入含まず

過去7年(令和元年～令和7年度)の工事の伐採において、伐採後に伐採木を売り払いをすることで、運搬費用、処分費用を抑えられ約94百万円のコストを縮減した。

## 発生土受け入れによる材料費のコスト縮減



当初、河辺川の二次締切堤に使用するINSEM材は、適用可能な土砂が確保されている下敷水残土処分場から運搬する計画であったが、他事業(河道掘削)で発生した河床砂礫の搬出先を山鳥坂ダムで受け入れることにより、本来運搬すべき土砂を5,800m<sup>3</sup>削減し、約10百万円のコストを縮減した。

## 新工法の採用によるコスト縮減

CASE-1 ; 従来工法 (切土+補強土工)

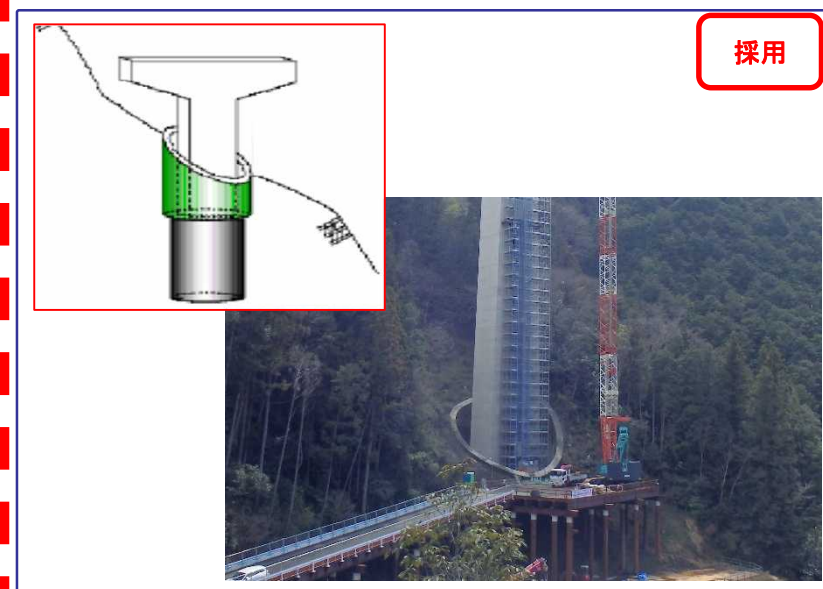


※写真は他事業の事例

工事費 ; 約45百万円



CASE-2 ; 新工法 (竹割土留工法)



採用

※写真は新入船橋の事例

工事費 ; 約35百万円

新工法である「竹割土留工法」を採用し、切土や法面保護の費用を縮減。  
今回、約10百万円のコスト縮減となることに加えて、地山の掘削面積を抑制したことにより環境に与える影響の縮小を図る。

## 新工法の採用によるコスト縮減

CASE-1 ; 従来工法 (法枠工+鉄筋挿入工+枠内植生基盤材吹付工)

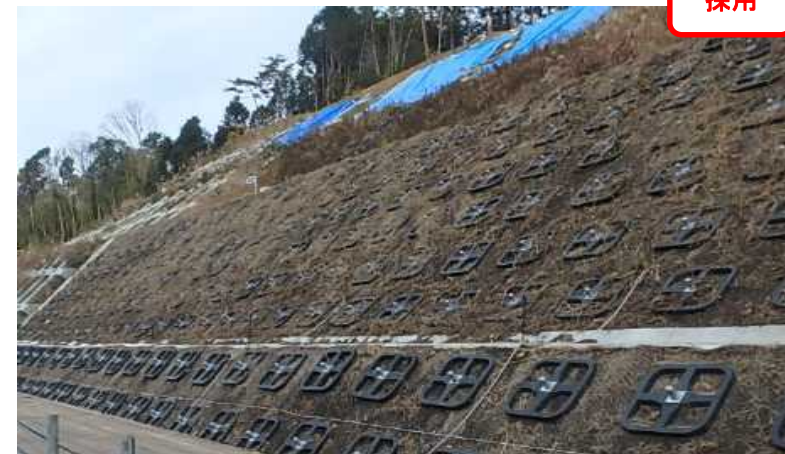


※写真は他事業の事例

工事費 ; 約30百万円



CASE-2 ; 新工法 (受圧板工法+鉄筋挿入工+植生マット工)



※写真は他事業の事例

工事費 ; 約24百万円

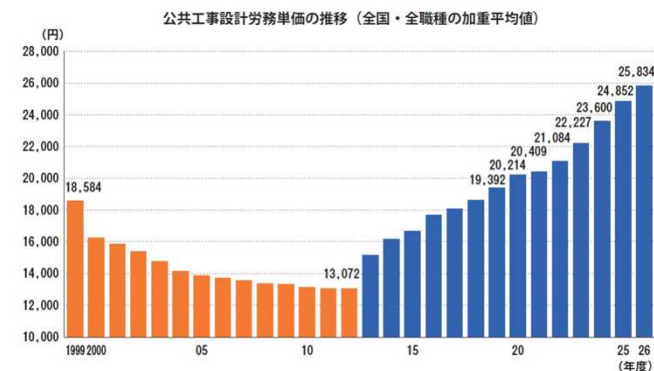
新工法である「受圧板工法+鉄筋挿入工+植生マット工」を採用することにより、コンクリート構造物や掘削量が削減され、約6百万円のコスト縮減を図る。

# コスト縮減(コスト増加が懸念される項目)

近年の物価や労務費の高騰、昨今の中東情勢の影響による原油や建設資材の価格上昇等の社会的要因の影響により、コスト増加が懸念される。

## 【コスト増加が懸念される項目の一例】

- ・労務費
- ・燃料費(建設重機、運搬費 等)
- ・石油由来の建設資材  
(アスファルト、軽量盛土材(発砲スチロール) 等)
- ・半導体(ダムコン等の演算処理機器 等)



建設物価調査会webサイトより  
<https://www.kensetu-bukka.or.jp/article/17686/>



社会的要因の影響により、コスト増加が懸念されるため、適切な事業費管理、工程管理に努める。

# 地元住民等への事業説明および広報について



## 地元への事業説明会の実施状況 (R6. 7以降)

- 毎年、地元を対象とした事業説明会を実施している。
- 令和6年の7月から現在まで説明会を14回開催した。
- このほか、地元自治会等だけでなく市議会議員等に対して現地視察や事業説明を実施している。

日付	実施内容
R6.08.01	岩谷自治会への事業説明
R6.09.20	岩谷自治会への事業説明
R6.10.22	岩谷自治会への事業説明
R7.04.22	岩谷自治会への事業説明
R7.04.25	月野尾地区への事業説明
R7.05.02	見の越地区への事業説明
R7.05.22	河辺地区への事業説明
R7.06.20	岩谷自治会への事業説明
R7.07.22	岩谷自治会への事業説明
R7.09.29	岩谷自治会への事業説明
R8.04.22	岩谷自治会への事業説明
R8.04.24	見の越地区への事業説明
R8.04.25	月野尾地区への事業説明
R8.05.20	河辺地区への事業説明



地元説明会の様子

## 「ダムだより」

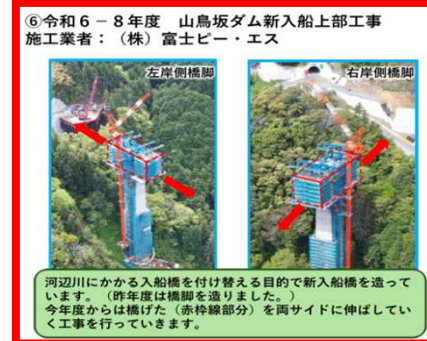


山鳥坂ダム工事事務所の事業紹介、イベント報告等を「ダムだより」として年2、3回作成。地元には、大洲市の広報に折り込んで配布している。また、道の駅等の観光施設で配布するとともに、事務所HPにも掲載している。

## 「ダムのお知らせ」



工事・調査業務の内容や時期、受注者の一覧を毎月大洲市肱川支所を通じて、「ダムのお知らせ」として地域住民の方に配布している。



# 山鳥坂ダム本体建設工事 起工式

昭和61年に実施計画調査着手以降、推進に努めてきた山鳥坂ダム建設事業において、この度ダム本体工事を本格的に着手することとなり、起工式を開催しました。

- ◆日 時：令和8年5月10日（日）10:30～12:00
- ◆場 所：大洲市肱川風の博物館 2階多目的ホール  
（大洲市肱川町予子林99-1）
- ◆参加者：約100人



はつぐわ・くす玉開披



肱川こども園による演し物(関連行事)



大洲臥龍太鼓保存会による演奏(関連行事)